

アシタバで最近確認した害虫

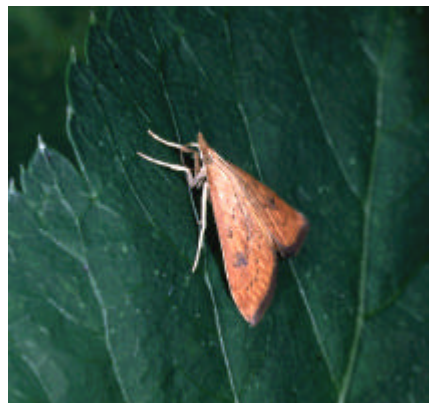
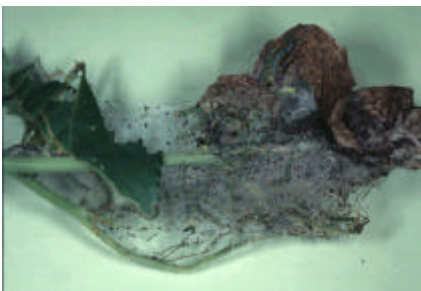
〔ヤマトフキバッタ〕



〔ウドノメイガ〕



〔クロモンキノメイガ〕



〔ハナウドモグリガ〕



アシタバで最近確認した害虫

直翅目： イナゴ科 ヤマトフキバッタ *Parapodisma yamato*

1997年5月に神津島で採集した幼虫個体を防除所内で室内飼育し、成虫まで成長させたものを加納康嗣氏；日本直翅類研究会に送付したところ本種と同定された。イナゴ科、イナゴ亜科、ミヤマフキバッタ属、年1化、7月下旬～10月下旬に発生するとされている。フキバッタは日本に9属 26種が分布。同属ではないが近縁のアマミフキバッタが果樹の害虫として知られ、ハネナガフキバッタは北日本で大発生することがあり、ダイズ・小豆・ゴボウ・アブラナ・ソバなどの農作物に被害を与えることが知られている。

神津島においては以前より多発しアシタバ圃場で新葉を食害し深刻な害虫となっている。発生は5月から10月ごろまで。（初確認）

鱗翅目： メイガ科 ウドノメイガ (*Udonomeiga vicinalis* (South))

神津島(1997年5月)・立川市などで採集。葉を食害する。埼玉県では4～9月に成虫が採集されている。

クロモンキノメイガ (*Udea testacea* (Butler))

葉に発生しているところを神津島(1997年5月)にて採集。東京付近の草地で5月、8～11月に採集され、アブラナ科・パセリ・ダイズ・セルリー・ハッカ・キクなど多種の作物を食害するとされている。

ヒメハマキガ科 ハナウドモグリガ (*Epinotia majorana* (Caradja))

神津島(1997年5月)・あきる野市において茎に食入している幼虫、葉・花蕾を食害している幼虫を採集した。本種はハナウド等のセリ科植物の花や花梗に食入すると言われている。伊豆諸島御蔵島においても発生は確認されている。

開花期に花蕾に食入し著しく食害するために、神津島においてアシタバの採種を困難とする重要害虫となっている。

そのほか、鱗翅目ではハスモンヨトウ、ヨトウ、チャノコカクモンハマキ、半翅目ではネギアザミウマ、直翅目でツチイナゴ、鞘翅目でサビヒョウタンゾウムシなどを確認している。